

『日経・東証IRフェア2026』に出展 当社への高い関心を寄せられました

日東精工は「社会のために役立つ」という理念を創業以来一貫して守り続けており、2019年に策定した「10年後の経営ビジョン」でも、『世界中で認められ、求められる「モノづくりソリューショングループ」を目指す』と謳っています。そして東証プライム企業として規範となるためにもガバナンスを強化し、経営の透明性を高めています。本年8月には「2026年12月期第2四半期決算報告」をまとめ当社ホームページでも公開していますので、ぜひご高覧ください。

8月27日には、みずほインベスターリレーションズ(株)協力のもと「2026年12月期第2四半期(中間期)決算説明会」を開催。当社代表取締役社長の荒賀誠が、アナリスト、機関投資家、メディアの方々に向けて決算概要をご報告しました。売上高が前年同期比6.3%増、営業利益が前年同期比31.3%増、経常利益は前年同期比37.8%増と増収増益となったこと。ファスナー事業では昨年度から進出しているインドでの売上が好調に推移していること。産機事業においては、主力である自動車業界で国内でのEV開発計画見直しの影響を受け伸び悩みがある一方で、海外ではインドでの好調に加え、アメリカ、タイ、韓国での設備投資需要も改善していること。制御事業においてはエネルギー分野での石油化学向け大型案件の寄与により増収となったことなど。さらにデータセンター向けの需要が、ファスナー、産機、制御のすべての分野において増加していることなどをご紹介します。

また8月27日、28日は東京ビッグサイトで「日経・東証IRフェア2026」が開催され、当社も今回、初出展。いわゆるBtoC向け企業、テレビCMで

知名度の高い企業が数多く出展されているなかで、どこまで当社に注目いただけるかを課題にしていたましたが、ほんとうにたくさんの方に当社ブースに立ち寄っていただきましたし、セミナー会場に当社代表取締役社長荒賀誠が登壇し講演をした際には、主催者側が用意した席だけでは足りず、立って聴講いただく方が多数になるなど盛況なものとなりました。皆さん、株主優待や配当などへの関心が高く、もちろん、それらにお応えする一方で、当社の地域を大切にしながらグローバルに展開しているユニークさにも着目いただき、あるいは「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞の『地方創生大臣賞』を受賞したことなどを評価、「長い目で応援していきたいと思いました」といったメッセージもいただきました。

今秋はこのほかオンラインで個人投資家向けIR説明会を開催したり、株主様向け工場見学会なども予定しています。今後もさまざまなチャネルを通じて日東精工グループの事業内容を発信し、技術力や、製品品質、さらにそれらを支える人財育成への取り組みをご理解いただくことで、当社のファンを増やしていければと願っています。



▲日経・東証IRフェア2026の
会社説明会の動画はこちら

従業員が積極的に 地域貢献活動に参加

当社では、従業員が地域のボランティア活動などに参加したことを評価し、昇格審査受験資格のためのポイントに加算する〈教育単位制度〉を設けています。会社での業務とは別に、従業員がさまざまな地域の奉仕活動やイベントにも、積極的に貢献できる環境になっているのです。



集合写真の左から3番目と
上の左(ゼッケン2番)が中野兼匠

8月30日に「第30回京都府消防操法大会」が開催され、綾部市代表として当社ファスナー事業本部製造部特品課の中野兼匠(班長)が団員として出場し、ポンプ車操法の部で準優勝を収めました。消防団活動は地域住民の生命と財産を守る重要な役割を担っています。当社でも多くの従業員が地域の消防団に所属し、地域防災活動に取り組んでいます。また、当社は綾部市防火防災協会とも深い関わりを持ち、材木会長が同協会会長、荒賀社長が理事を務めるほか、災害ボランティア活動にも積極的に協力してきました。これからは地域とともに歩み、安全・安心なまちづくりに貢献する活動を応援してまいります。

『月刊人事マネジメント』誌で 当社社長の言葉が紹介される!

りそな総合研究所が毎月、企業の経営者や幹部を対象に「未来を創る!人を惹きつける成長企業視察研修」を企画。当社が昨年「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞の『地方創生大臣賞』を受賞したこともあり、7月末に41名の方が当社を訪問されたことは、前号の本欄でご紹介しましたが、この研修報告が『月刊人事マネジメント』9月号に掲載されました。「心に沁みる『いい会社』の経営者の言葉」として、当社代表取締役社長荒賀誠が社長就任時に掲げた「経営理念の継承と事業の深化」という言葉をピックアップ。『しんか』という言葉には、前へ進む『進化』もあれば、深く掘り下げる『深化』もある。そして最終的には真実の真である『真価』が問われる」といったことなどを丁寧にご紹介いただきました。



『月刊人事マネジメント』9月号に掲載された記事

生成AIと日東精工

生成AIが急速に普及しており、それにとまなうデータセンター設置や関連する投資も急速に拡大しています。そして、データセンター増設に関連して、当社事業も伸長しています(P.1ご参照)。たとえば電子機器類は粉塵などを嫌います。ねじを締めるときに金属と金属の摩擦により発生する微細な切粉が機器の不具合に直結するわけですが、それを防止する高機能なねじ「CPグリップ」の採用が増えているのです。

当社では各種機器などに多くの締結部品を提供しており、それらに使用される高精度な組み立てや品質管理も評価され、産機事業においても多くのご注文をいただいています。またデータセンターの設備には流量計も多用されており、当社の制御事業が貢献しています。

データセンターは、成長分野であることは間違いなく、「日経・東証IRフェア」にいられた方々のアンケートなどをみても、「AI」や「生成AI」関連は高い関心事のようです。

ちなみに「検索」がたくさんの情報から探し出すのに対し、「生成」は検索した情報を抽出するだけでなく、学習したパターンをもとに新しい出力を作ることです。たとえば「ねじをテーマに秋の俳句をつくって」と指示したら、「錆ねじの掌のこる秋日かな」「ゆるみたるねじをしめり秋の暮」「ねじ箱を開けば匂ふ秋の雨」といった作品を数秒でひねり出してきました!なかなかの秀作であり、しかしながら恐ろしさも感じます。現状ではまだ完璧ではなく、事実と違うことをもってもらしくするとか、あるいは逆に暴走してしまうというリスクはありますが、当社では使い方・付き合い方をしっかり見極めつつ、お客さまにとってのベストに添えてまいります。



「CPグリップ」

オイル系粘液を封入したマイクロカプセルを先端部に塗布したねじ。締結によりマイクロカプセルが破壊されることで粘液がにじみ出し、めねじ成形粉や摩擦粉を粘着し、粉の飛散や落下を防止します。様々なねじへの塗布が可能

「強くて愛される会社研究所」 視察ツアーを受入れました

企業コンサルティングを通して日本経済を強くすることを目的とするアタックスグループが、定期的に「企業視察ツアー」を実施しています。

商品力や技術力、社員力、そして財務体質が「強い」会社、そしてお客さま、社員、関係者から「愛される」会社……このふたつを兼ね備えた会社を視察し、池クジラ戦略（業界でのトップを効率的に目指していく）を学んでいくというものです、当社への視察の依頼があり、9月4日に受け入れさせていただきました。当社社長荒賀誠の講演、八田工場見学、そして意見交換会を実施。地域紙「あやべ市民新聞」にも、その模様が掲載されました。



9月4日に実施された「企業視察ツアー」とその模様を報じる「あやべ市民新聞」（9月7日付）

京都府全域の先生を対象 「10年目研修」にもご協力

前項の「視察ツアー」のように企業の経営者や幹部の方はもちろんですが、当社では次代・次々代へ大切なものをつなげていくという観点から、子どもたちやそれを支える教育者へのサポートも行っています。今般、当社が本社をおく綾部市だけでなく、京都府内全域の小学校・中学校・高等学校・養護教諭を対象とした、いわゆる〈10年目研修〉の講師を当社代表取締役社長の荒賀誠が務め、延べ300人の先生にお話をいたしました。

京都府内には名だたる企業がたくさんあるなかで、当社の人財教育やモノづくりに注目され依頼されるのは大変光栄なことです、これからも規範として現状維持に満足するのではなく、さらに上を目指してまいります。



「中堅教諭等資質向上研修 共通講座Ⅲ」を「人生の『ねじ』を巻く77の教え～人づくりから始めるモノづくり～」と題して2日間、各2時間講義

京都障害者ワークフェアで 表彰を受けました

京都府障害者ワークフェアにおいて、京都府の「優良勤労者知事表彰」に当社制御システム事業本部製造部生産管理課の土佐拓大と当社特例子会社日東精工SWIMMYの山下圭一がそれぞれ受賞し、京都府高齢・障害者雇用支援協会の「10年勤続表彰」に産機事業本部製造部組立課の内藤清章が受賞しました。日東精工SWIMMYは障害者雇用の特例子会社ですが、日東精工グループでは、性別、国籍、障害の有無などに関わらず、一人ひとりが個性を発揮できる環境づくりに努め、多様な個性の相乗効果による技術革新（イノベーション）の創出を目指します。



左/土佐拓大 中/内藤清章
右/山下圭一

波多野製作所の取り組みを 京都府知事がテレビで評価

当社協力会社である波多野製作所が「KBS京都」のテレビ番組「きょうと経済テラス キュンと！」で取り上げられ、9月25日にオンエアされました。「キラカン！（キラッと輝くカンパニー）」というコーナーで、同社の兼業（農業農家）を支える風土&シニア人材の活躍などが紹介され、波多野隆史社長が西脇京都府知事に説明される様子などが放映されました。



【誠の言霊 ④】

一日を生きることはい 一歩進むことでありたい

代表取締役社長
荒賀 誠

首

都圏の某市でまちづくり関連のイベントをボランティアで主宰している知人から「補助金が来年度で打ち切られる」と聞きました。

「既存のものへの助成は3年が上限というルールなので仕方がないが、毎回、毎回、常に新しい切り口を用意し広がりを持たせてきたものが、『チャレンジ』という枠から外されるのは残念。チャレンジを一面的にしかとらえてないのは、もったいない」という感想でした。

確かに、チャレンジというと、一般的には、新しいことをはじめる、未知なるものへのアプローチととらえがちです。しかし、現状維持に甘んじずそれをさらに発展させていくことも大事ですね。それもまた、い

え、それこそがチャレンジの肝ともいえるでしょう。チャレンジをして、そこから何を得るのか、次にどう生かしていくか、その継続がチャレンジともいえるでしょう。

☆

「一日を生きすることは 一歩進むこととでありたい」

これは日本で初めてノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士の言葉であり、京都・下鴨小学校にその書が寄贈されています。進化は深化、新化でもあり、それが真価にもつながっていきます。当社の技術も製品も先人の挑戦の積み重ねの上に成り立っています。ずっとチャレンジを続けていくタフな精神をこれからも大切にしていきたいと思います。

「幸せ」を見つけるヒント — 10月

ねじっとくんとあやべ

今から10年前に『鳩サブローの鎌倉の歩き方』というガイドブックと出会いました。鳩サブローは鎌倉銘菓「鳩サブレ」から生まれたキャラクターですが、お店のマスコットが街を紹介するというコンセプトを拝借し、当社でも、本ニュースレターで連載したあやべ情報を1冊にまとめ、ねじっとくんが案内する『あやべ大好きBOOK』を2017年にポプラ社から刊行しました。お店のキャラクターの街案内も珍しいですが、上場企業のキャラクターがガイド役を務める一般書というのは、おそらくねじっとく

んが第一号で、かつ、ほかにまだ例がないのではと思います。

今般、日刊工業新聞社主催の「第1回関西モノづくり企業 推しキャラグランプリ」にエントリーしました。結果発表はこれからですが、ねじっとくんの活躍を今後もご期待ください。

※2020年にガイド役を綾部市のマスコットキャラクター「まゆびー」にバトンタッチし、綾部市市制70周年記念版も刊行されている



日東精工代表取締役会長 綾部商工会議所会頭 材木正己



発行：日東精工株式会社経営管理本部経営企画室

当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲覧いただけます